

整理番号	頁	御意見の趣旨	県の考え方
1	5	「国際化・グローバル化に対応する人材育成の推進」により、自分の生まれ育った地域という背景が希薄となり、地域の過疎化が更に進むのではないか。	高等学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、我が国や郷土を愛するとともに伝統と文化を尊重し、日本のみならず世界の出来事に関心を持たせることにより、国際的な視野で地域の諸課題を解決する主体的・積極的な資質・能力やコミュニケーション能力を育ててまいりたいと考えております。
2	6	地域の特色を生かした高校づくりを行い、各地域に適した生徒数で学べる環境が必要であると考えます。	これまでも各高等学校の特色づくりには取り組んできておりますが、生徒・保護者・地域のニーズ等を勘案しながら、新たな学科やコース等の設置について十分検討することとしております。また、1学級の募集定員の在り方についても検討してまいります。
3	6	地域の人材育成の観点から、通学区域の設定を考えるべきではないか。	平成20年に普通科における通学区域を撤廃したことにより、中学生が自ら行きたい学校を選択できるようになり、進路意識や学習意欲が一層高まっております。また、普通科高等学校の特色ある教育活動等も見られるようになっております。 生徒の進学希望への対応や地域の人材育成という観点から、引き続き、現在の配置・規模の維持に努めてまいります。
4	7	特色のある地方創生の取組が県内各地で行われている中、学校と地域の連携体制を充実させ、高校生が主体的に地域課題解決に参画する意識を持たせることが、今後重要になると考える。ぜひ、地域や保護者の学校運営への参画を推進して欲しい。	地域や保護者の学校運営への参画等の推進の観点から、各高等学校や地域の実態等に応じて、コミュニティ・スクールの推進を検討してまいります。
5	9	特色ある宮崎ならではの学びを行っている学科を県外の多くの方々に周知する意味からも、高校入試を全国枠として、県外からでも受検できるようにしてはどうか。	学校の特色や県内中学生のニーズ、地域における状況、教育的効果等も十分に配慮しつつ、高等学校入学者選抜検査における全国枠の導入について検討してまいります。
6	10	高校再編の基本的な考え方に、高校生の通学時間や距離等の基準を設けるべきではないか。	遠方から通学する生徒の負担軽減を図ることは重要であると考えております。
7	10	高校再編の基本的な考え方を、「各市・郡には県立高校を1校以上配置する」「適正規模となるよう統廃合の検討を行う場合は、各市・郡に2校以上ある場合に限る」とすることはできないか。	これからも引き続き、教育環境の充実に努めるとともに、高等学校の統廃合等については、今日の急激な社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を育み、国内外で活躍する人材、本県産業の発展を担い地域で活躍する人材等の育成のため、高等学校の所在地や設置学科、生徒・保護者・地域のニーズ等に適切に配慮するものとします。
8	13	福島高校の存続を願う。福島高校を魅力的な学校にして欲しい。(同様の意見8件) その理由として ・遠距離通学は、生徒にとって生活や学習面でも大きなマイナスとなり、経済的負担が大きい。 ・高校がなくなると、地域を離れる人が増え、過疎化に拍車がかかり、地域が衰退する。 ・地理的条件から教育を受ける権利が損なわれる。	1学年3学級の福島高等学校については、連携型中高一貫教育の取組の成果や定員の充足状況等を注視しながら、今後の在り方について引き続き検討することとしています。 なお、検討にあたっては、生徒にとって、より良い教育環境を提供するという視点に立ちながら、高等学校の所在地や設置学科、生徒・保護者・地域のニーズ等に適切に配慮するものとします。 福島高等学校につきましては、これまで以上に県と地元が連携・協力しながら、今後とも、魅力と活力ある教育活動が展開できるよう、例えば「串間市中高連携推進委員会」の場を活用しながら、引き続き、検討を重ねていくことが必要であると考えております。